

九州大学理学系地区基本設計

計画説明書

2006年1月

はじめに

九州大学は、1911（明治44）年に九州帝国大学として誕生して以来、約1世紀にわたって、多くの人材を世に送り出し、顕著な研究成果を社会に発信し続けている。国立大学法人化を経て、「教育」「研究」「社会貢献」「国際貢献」を活動の4本の柱とし、「新科学領域への展開」と「アジア指向」を将来に向けた基本的方向性としており、「人的資源」、「施設・スペース整備」、「予算措置」、「教育・研究のための時間の拡大」に関して評価に基づく支援を行い、様々な活動を活発に展開している。教育研究における教員の卓越した成果と競争資金の獲得に対して、学内の評価制度を確立し、研究員の配分、研究スペース、研究資金、研究時間の増加等、明確な優遇措置を行っている。新しい九州大学像を実現する舞台としての伊都キャンパス建設を進めており、2001（平成13）年3月に評議会決定した「新キャンパス・マスタープラン2001」のもとで、これまで、「工学系地区基本設計」、「センター地区基本設計」「パブリックスペース・デザインマニュアル」「水循環系保全整備計画」等を策定し、これらをもとにした施設整備を進めてきた。

2005（平成17）年10月に伊都キャンパスが誕生し、工学系の学生と教職員による新しい生活が始まった。九州大学の新キャンパス計画が新たな局面を迎えたこの時期に、次の移転を控える理学系地区の基本設計をまとめることとなった。

理学系地区は、工学系地区とセンター地区を結ぶ要に位置する。理学系の研究教育スタイルを反映した平面やキャンパス・モールの人の流れ、立面構造と景観等、検討項目は多岐にわたった。理学系地区基本設計は、理学系利用者から示された様々な与条件のもとに、ウエスト・ゾーンWGおよびコアチーム、施設部と新キャンパス計画推進室、設計コンサルタントであるシーザーペリ&アソシエイツ・ジャパンのスタッフが精力的かつ慎重な検討を重ね、マスターアーキテクト委員会および新キャンパス計画専門委員会がその方向性を位置づけたものである。

2005年(平成17年)1月
新キャンパス計画専門委員会

